

はじめに

今年度の鹿児島県支部『調査研究事業』は、当県の貴重な資源である「観光」と、一部を除いて人口の過疎化が進んでいる「地域の振興」の観点から、全国に800以上ある『道の駅』(当県には17)に焦点を当てたものである。

そのうち県内10の施設を診断班のメンバーが直接訪問し(なかには車を運転しないメンバーも居るんですよ)飲んだり、食ったり、遊んだりしながら、
<概要> <特徴> <課題> <提言>等を個別に挙げたうえで、更に県内全体の道の駅に対する提言までをまとめた、汗と涙の労作である。

私の記憶では、道の駅を対象を絞った調査研究事業というのは、多分全国では初めてか、有ったとしても極めて貴重な取り組みだと思われる。

我が国のモータリゼーション化が極めて進展していること、貴方の趣味はと聞かれて「ドライブ」と答える人が多い我々庶民の長閑な現状からすると、『道の駅』が単なるドライバーの休息場所ではなく、

勿論施設の有り方が問われる訳だが、訪問者にとっては、自分自身で憩い、楽しみ、味わい、眺める思い出の地となりうるであろうし、

運営主体やその地域にとっては、観光情報や特産物を外に向けて発信するとともに、経済や交流効果により地域の振興に活かせる貴重な施設であることが分かる。

本書を目にされた皆様が、かたくるしい報告書としてだけでなく、観光マップ的な使い方をされ、どしどしここに挙げられた『道の駅』、そして挙げられなかったわが県内の他の『道の駅』をぜひ探索・体験して頂きたい。

各々が持ち味の有るなかで、小生おすすめのスポットは、世界一美しい夕日が眺められると言われる大浜海岸に面した、道の駅「ねじめ」であることは言うまでもない。

18年1月

支部長 笠毛 久幸